

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年9月27日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670300393号
法人名	社会福祉法人恵仁会
事業所名	グループホームふれあい
所在地	鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	平成23年9月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年10月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人恵仁会の中で最も小さな施設ではあるが、研修には特に力を入れている。管理者は認知症指導者として、スタッフの研修にも力を入れており、他施設の研修受け入れも積極的に行っている。ふれあいは病院に隣接し、医療の必要な利用者様にとっては最も希望される施設である。また周りは田んぼがあり季節を楽しむ野菜も作る菜園も、毎日の日課の散歩のコースでもある。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年になる当ホームは、地域の中で認知症に関する中核的な役割を担っており、地域や行政、他のグループホームなどとの幅広い連携を図っている。また、法人は他にも鹿屋市委託事業や特別養護老人ホーム、小規模多機能ホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所などを運営して、長年、鹿屋市の高齢者福祉に携わっている。同敷地内には協力医療機関もあり、訪問看護ステーションとの連携も図られて、利用者の日々の健康管理はもちろんのこと、緊急時や重度化・看取りの対応も万全を期して本人・家族が安心して生活できるように支援している。職員育成にも力を入れて、法人内研修や外部研修など全職員が働きながら学び、資格取得に向けた支援を行って職員の働く意欲を引き出している。職員は介護の実務経験も長く、全員が有資格者で介護のプロとして優れた知識と技術を持ち、更なる向上を目指して日々研鑽している。また、利用者のできることを見出しながら「あなたの立場に立ち、あなたを感じ、あなたを理解する」という、法人全体の理念に沿ったケアに邁進して、利用者・家族の思いや意向を大切に、個々に応じた細やかな支援や配慮がなされ、質の高いサービスの提供が行われている。職員の声かけもやさしく、利用者の表情も穏やかで法人内敷地に立地しているものの、閉塞感が感じられず、開放的で明るく、家庭的な雰囲気である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は運営上もっとも重要と考えており、ケアの基本でもある。地域で暮らし続ける本質を考え、入居者が安心して生活出来る家作りを目指した理念としている。	職員は「あなたの立場に立ち、あなたを感じ、あなたを理解できるようなサービスを目指します」という法人全体の理念を念頭に、理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季の行事を通し、参加する事で同じもの関係を持っている。小中学生の職場体験などは積極的に協力している。	近隣の保育園児との交流や小中学生の職場体験の受け入れなど、子ども達との交流の機会を作っている。また、地域の催し物（運動会・棒踊りなど）への参加・見学を通じて、無理なく、利用者と地域の方々が交流し合える関係を作っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	大隅地区GH連絡協議会の会長施設としての自覚にたち、認知症セミナーなどで地域の皆様に対して認知症の理解の為の研修等を積極的に開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表や地域包括支援センター職員、市の職員が出席しており、それぞれの立場から意見をもらい、相談なども行っており、運営に役立っている。	運営推進会議は2ヵ月に1回、地域の代表・家族・利用者・行政などの出席を得て定期的に開催している。避難訓練後に行ったこともあり、参加者からの意見や助言をもらい、安全対策の話し合いも行われている。	

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当部署や法人内にある地域包括支援センターへの相談を通して問題解決に向けて協働して取り組んでいる。分からない事は市に問い合わせている。	地域包括支援センターとの連携を通じて、ホームにおける諸問題を解決している。市との連携も取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいない。拘束に対して高い意識をもち、毎月のミーティングでは拘束に対しての勉強会は実施している。	重要事項説明書に「原則として身体拘束は行いません」と明記されている。また、ホーム内に身体拘束廃止委員会も設置されて、毎月、職員全員で勉強会を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で自由な生活を支援している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加し、職員の全員共通認識のもとで関心の持てる話題提供を行っている。管理者は県の認知週指導者もかねており、県の権利擁護などの研修で講師も務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学んでおり利用者の家族からの相談にも応じている。小規模礼系事業の中で積極的に研修会を開催している。		

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は重要事項説明を行い利用者や家族の疑問にも丁寧に説明している。また料金の改定などは家族会を開催し、説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには意見箱を設置し、第三者委員会を設けている。家族会や面会時には必ず家族からの意見をくみ取っている。意見等は法人内の会議や毎月のミーティングで話し合い、運営に反映させている。	重要事項説明書に第三者委員も明記して、外部者に発言する機会を設けている。また、日頃より、家族が職員に対して意見を言いやすい雰囲気作りに努めており、面会時や電話連絡の際に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、毎年、食事会を兼ねて家族交流会を行っており、より、信頼関係が結ばれるように努めている。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設在宅会議での内容の説明の報告を行うとともに、職員からの意見を吸い上げ、会議の中で提案している。	毎月、全職員参加でミーティングを行って、意見交換や話し合いを行っている。職員主体の業務を推進しており、職員から出された、意見・提案などは業務やサービスの質の向上に反映させている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回は自己評価表の提出と共に面接を行い職員の意見を吸い上げている。その能力に応じ、昇給を行っている。		

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人又は経験年数に応じた研修に適宜参加して頂き、資格取得に応じた報奨金などもある。小さいながら資格週時には力を入れている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は大隅地区GH連絡協議会などの会長を務め、地域の同業者と共に研修会や交流会を通し、意見交換に努め研修等の受け入れも行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族に見学に来て頂き重要事項説明を十分に行い、納得してからの入居になる。見学に来られない方に対しては管理者が、出向き顔なじみの関係を作っている。スタッフは常に笑顔で接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対してはふれあいの生活の説明を十分行い、納得を頂いている。面会時間などは特に定めず、場合によっては宿泊もして頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される本人の生活歴や希望をお聞きしケアプランにも反映させている。特に病院が近い為に、医療ニーズの高い人に対する対応には家族にも好評である。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は模擬の家族であることから、本人の能力に合う仕事のお手伝いをお願いする事で利用者の顔も輝いている。手伝って頂いた後は必ず「有難うございます。助かりました」と伝えている。		

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来宅時は必ず笑顔でお茶をお出しするとともに、時間がある時は会話の中に加わって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅での使い慣れた家具や大切な品物は持参して頂いている。また地域や親せきの面会時は、お茶と共に部屋でゆっくりくつろげるような配慮を行っている。	墓参りや自宅訪問など本人・家族の希望に応じて支援している。また、友人・知人が訪ねやすいうように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮して、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調不良以外は、食事やお茶の時間は居間で全員で頂く様に配慮している。性格を考慮した席の配置を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人の状況をお聞きしている。家族などの交流はあり、いつでも気軽に入れる環境は作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で訴えられる方には希望をお聞きし、沿える様にプランを立てている。自分で訴えられない方に対しては家族（子供）の意見に耳を澄ませ可能な限りの援助を行っている。	何をするにも本人の意思確認を優先して行うように心がけている。会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者の情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者は過去の生活歴や暮らしが現在の生活に大きく影響するために、家族などから聞き取りが重要である。家族の面会時は色々な情報を集めスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや食事、睡眠など、日勤帯と夜勤帯の引き継ぎは、特に時重要視している。引き継ぎを行った人は他のスタッフに伝え情報を共有し日々の援助に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の施設在宅会議での内容の説明の報告を行うとともに、職員からの意見を吸い上げ、会議の中で提案している。	個々の身体状況や性格、癖などを把握して、洗面・食事・投薬・排せつ・入浴・衣類の着脱・移動・散歩・レクリエーション・台所手伝い・意思疎通・認知症状の各項目に分けて、自立支援も取り入れた分かりやすく、詳しい介護内容の計画を作成している。また、毎月、モニタリングを行って、見直しの必要性を全職員で検討している。	

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングはもちろんだが日勤帯でも記録の時間は個々の利用者の情報の共有やアクシデントやヒヤリハットの情報は大きな事故に繋がらない援助に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々情報や状況などは連絡帳などを用いて、スタッフ全員で共有できる仕組みを取っている。本人の希望で突然毛染めや美容室に行ったり、家族と出掛けたりは行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お店の利用や手紙を出しに行ったり、地域の行事に参加したりしている。火災避難訓練時は地域の援助を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては家族の希望で行っている。検査などに関しては病院の意向で、家族が付き添って下さる。	利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応を行っている。また、緊急時など、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られている。	

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日は訪問看護師の来宅日になっているために個々に対しての疑問点は相談している。また、納得のいく説明の為に職員の知識の取得にもなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入院サマリの記録と共に情報提供に努めている。また、入院された時は洗濯の援助と共に、病院ナースや介護者と親しく情報の交換を行い、早期退院に向け、リハビリ時の見学や助言を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に対しては入居時に説明を行っている。家族の状況を考慮し、その本人の状況に応じて段階的に説明を行った方が良い家族もいる。面会時は体調や生活の様子を細やかに説明している。また、法人内外の施設の説明も丁寧に行っている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成している。本人、家族の希望による看取りの経験もあり、職員も方針を共有してチームとして支援している。訪問看護ステーションの看護師を中心とした勉強会も行って、職員は不安なく支援に取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会でも年に1回は消防署職員による訓練があり全員参加している。また、ミーティングでも定期的に勉強会を行っている。		

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の避難誘導訓練を行っている。また地域の住民や消防分団の協力を得た訓練も行っている。</p>	<p>定期的な訓練を行っており、隣接する法人の施設や消防関係者、地域住民の協力を得ている。また、訓練後に運営推進会議を開催して、参加者からの意見や助言がホームの安全対策に活かされている。スプリンクラーは設置済みである。備蓄の管理は法人ぐるみでなされている。</p>	

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行い、ほこりやプライバシーを損ねるような言葉かけに対して、お互い注意し合えるような環境を作っている。ホーム便り等の写真掲載についても家族の同意を得ている。職員採用時の個人情報の誓約書も取っている。	個々に応じた声掛けや、プライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。法人内研修やミーティングなどで機会を捉えては話をし、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。職員、利用者の会話もやさしく、おだやかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアに取り組んでいる。可能な限り希望をお聞きし、決定出来る人に対しては意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れはあるが個々の体調や感情により援助の内容は日々変わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の要望で美容室にお連れしたり、本人の要望で毛染めの援助を行っている。衣類は自分で選べる方には選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜をふんだんに利用し食べやすいように調理している。その人の体調や咀嚼度に応じた硬さへの配慮を行い、下ごしらえや盛り付けなどの協力を頂いている。	個々の力量に応じて出来ることは職員と共に行っている。また、小菜園の管理やへちま・とうがんなどの食材の調理方法を利用者にも教わることもある。ときには、気分を換えて、外食や弁当持参で花見や果物狩りに出かけている。日光浴を兼ねて、ホームの外でお茶とおやつを楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排便状態の確認と共に、水分のチェックを行い、好みに合わせた飲み物の援助や夜間帯での水分補給にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後におこなっており、自分の歯の人に対しては歯間ブラシの援助やみがき残しの点検を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のオムツ代は本人負担であることから、排泄パターンを掴み、可能な限り使用しない様に支援している。	家族の負担軽減にもなるため、おむつ・リハビリパンツの使用は極力しないように努めている。日中は布パンツに尿とりパッドで、職員のコマメな声かけ誘導によるトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の行動障害は便秘が原因となり得るので、排便チェックは毎日行い、水分量や食事量を把握し、適宜散歩などの運動を行っている。		

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人の希望と体調を考慮している。午前中は散歩や機能訓練に時間を費やす為に午後からの入浴となるが、入浴回数は個々によって異なり、毎日入浴が日課の方もいらっしゃる。	毎日入浴するのが日課の利用者もあり、個々に応じた入浴の支援を行っている。浴槽につかることが足の機能訓練にも繋がっている利用者もあり、入浴を楽しみながら、リハビリも兼ねている。冬場は入浴剤やゆず湯で温まるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為に可能な限り、午前中は日光浴や散歩を行っている。心地よい疲れで安眠に繋げる支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては毎回の処方箋は綴っており、スタッフの共通認識がある。日常の変化に気づいた時は、訪問看護師や病院の看護師や薬剤師に相談できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、その人の能力に応じた手伝いを頂く事により、利用者の笑顔を引き出す努力をしている。嗜好品については、個々の必要時に置いての買い物支援を行っている。ドライブなどの支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望によっては家族の協力を得ながらの支援を行っている。体力がなくなり何処にも行きたくないとおっしゃる利用者も増えてきている現状がある。	利用者の状態や天候に応じて、畑の収穫や散歩、ドライブを兼ねた買い物同行などに出かけている。また、外食に出かけたり、季節に応じて、花見や果物狩り、イルミネーション見学などにも出かけている。法人の施設での催し物や地域行事の見学などにも出かけている。	

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の事を理解される方にはお持ち頂いている。買い物でレジに並び自分で支払いされる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙が書ける方に対しては切手を貼って頂き、ポストへ投函の支援は行えている。電話に関しても同様である。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室や居間、廊下、脱衣所などの湿度、室温に常に配慮し快適な生活の援助を心掛けている。季節感を取り入れたグリーンカーテン。中庭や玄関は利用者のなじみの花を植える様に心掛けている。</p>	<p>明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者は和室やソファなど思い思いの場所でくつろげる配慮がなされている。また、昼食後は和室で昼寝をする利用者もいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下のいたるところにソファや椅子を置き、利用者が思い思いの場所で、くつろいで頂ける様に工夫・配慮している。</p>		

鹿児島県 グループホームふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の配置に関しては、本人及び家族と相談している。状態によってはスタッフが決める事もあるが、両者の理解のもとで行い心地よい空間が保たれる様に工夫している。</p>	<p>入居の際に、使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように家族に説明している。テレビ、ラジオ、タンス、ぬいぐるみ、位牌、仏壇などが持ち込まれている。家族の写真や飾り物があり、居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人や周りの状況に合わせて、テーブルや椅子の配置を変える事がある。配置換えした場合には、混乱されない様に、名前の明記を行っている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームふれあい

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームふれあい

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない